



第3回 草津市国際交流協会主催 外国人による日本語スピーチ大会

9月29日(日)、キラリエ草津にて「第3回KIFA外国人による日本語スピーチ大会」を開催しました。本大会では、KIFA日本語ひろば「きずな」とオリブより13名の生徒が出席し、日本での生活や母国と家族への想いを熱く語ってくれました。初級の部では、1位(KIFA賞)をスリランカ出身のハシニさん、2位(草津ライオンズクラブ賞)をスリランカ出身のナジットさん、3位(奨励賞)をフィリピン出身のジョランドさんが受賞しました。中上級の部では、1位(KIFA賞)をインドネシア出身のニョマンさん、2位(草津ロータリークラブ賞)をスリランカ出身のパハンさんが受賞しました。



KIFAがこのようなスピーチコンテストを開催することは、誰もが自分のスキルを表現する良い機会だと思います。初級で1位を取るととても嬉しかったです。KIFA日本語スピーチコンテストに参加したことで、最年少の参加者として自分の日本語能力がどれだけ向上したかを確認することができました。少し緊張しましたが、先生や友達の前でスピーチをすることができました。日本語の知識と会話力を向上させるのを助けてくれた学校の先生、KIFAの先生、家族に感謝しています。皆さん、ありがとうございました。

● 玉川小学校4年生
ハシニ・サハンヤ・エディリマーンナ(スリランカ)

最初はKIFAのスピーチコンテストに参加する自信がありませんでした。しかし、よく考えてみると、これは自分の日本語能力をもっとチャレンジできる良い機会だと気づきました。日本語能力試験のような試験問題だけでなく、いかに上手な日本語を使って言葉をつなげられるか、話の中で自分を表現できるか、大勢の方々に伝えたいことを伝えられるか。

賞状をいただけるとは思っていませんでした。私のテーマは、他の参加者に比べてとてもシンプルで、ただ私の日本語を追求するまでの道のりを少しでも伝えられるのは良いと考えます。このスピーチコンテストを通して、日本語で自分を表現する機会を与えてくれてありがとうございました。これからは、新しいことを学び続け、日本語でもっと自分を表現することをためらわないよう、自分自身にも挑戦していきたいと思います。

● KIFA日本語ひろば生徒
ニョマン・スリ・ハンダヤニ(インドネシア)



滋賀県ミシガン州 友好親善使節団 派遣



9月5日(木)～12日(木)に「第23回滋賀県ミシガン州友好親善使節団派遣事業」として、草津市より使節団6名が姉妹都市の米国ミシガン州ポンティアック市を訪問しました。出発前に団員の皆様は橋川市長より激励を受け、ポンティアック市や関係団体への親書と記念品を託されました。滞在中は、ミシガン州議会議員のブレンダ・カーターさんとランディー・カーターさんのご夫妻やポンティアック市長、ポンティアック姉妹都市クラブ、ポンティアックロータリークラブ等より数々の温かいおもてなしを受け、メディア取材を受けるなど大歓迎されました。両市の友好を一層深めていただいた団員の皆様は帰国後、市長に現地の様子を報告しました。

2024年9月5日～9月12日の1週間、滋賀県ミシガン州友好使節団を通じて草津市の姉妹都市であるポンティアック市に訪問してきました。滋賀県ミシガン州友好使節団に参加したきっかけは、昨年ポンティアック市使節団が来草された際にお会いした、ミシガン州議会議員ブレンダ・カーター氏、ランディー・カーター氏夫妻の人柄に惹かれたこと。そしてランディー氏との別れ際に、「是非ポンティアック市に来てください。精一杯おもてなしをします。」という言葉を受けたことがきっかけでした。その言葉通り、ポンティアック市到着後から別れの時まで全て、心が込められた素晴らしい「おもてなし」の連続で感動と感謝の日々でした。

私がお世話になったホストファミリーは、ポンティアック市役所横に日本庭園を造られたティム・トラヴィスさんでした。トラヴィスさんが住んでおられる邸宅は湖の畔にあり、綺麗な景色を楽しむことが出来る場所でした。その湖でボートに乗せて頂いたり、キャンプファイアーをしながらマシュマロ焼きを食べたり…日常生活と離れた時間に癒され、今後の人生に於いての時間の過ごし方をも考えさせられました。今までは国際交流ということに無縁な私でしたが、異文化を知ることにより自国文化の魅力を再認識することができました。今後草津市の国際交流に携わっていきたいと思いました。

● KIFA会員 中司 智美



【行程】

9月5日(木)

◆羽田空港→デトロイト空港

9月6日(金)

- ◆全体歓迎式
- ◆ポンティアック市庁舎で歓迎会
- ◆草津フレンドシップガーデン散策

9月7日(土)

- ◆消防署のチャリティ参加
- ◆ポンティアック市交通博物館
- ◆昼食会
- ◆M1コンコース見学

9月8日(日)

- ◆モータウン博物館
- ◆昼食会
- ◆庭園散策

9月9日(月)

- ◆ロータリーパークでポンティアックロータリークラブと記念植樹
- ◆昼食会
- ◆ティム・トラビス氏(元ポンティアックロータリークラブ会長)による送別会

9月10日(火)

- ◆国際技術アカデミーとポンティアック高校訪問
- ◆市庁舎で送別式
- ◆全体送別会

9月11日(水)

◆デトロイト空港出発

9月12日(木)

◆羽田空港到着



2018年度中学生大使ランチ会

2018年度に草津市とポンティアック市の姉妹都市締結40周年を記念して、市内7つの中学校の中学生代表がポンティアック市に派遣されました。その後6年を経て当時の中学生大使6名が集まり、8月17日(土)にランチ会を開催しました。久しぶりに再会した皆さんは、派遣当時の思い出や現在のご自分の進路への影響、今後の中学生大使へのアドバイスなど和気あいあいと語りました。

今回の交流会にご縁があって参加させて頂き、何年かぶりにあの時の仲間と再会して、当時の経験が人生に影響していると共有できて嬉しかったです。当時はその場を生きる事で精一杯で全部は吸収できなかったけど、事後の交流会に参加してみんなと喋る事で当時の記憶が蘇り、振り返るからこそ分かる事や感じることもありました。ポンティアックでの経験はその場限りで輝くものではなく今後も私の人生全てに影響を与えてくれるのだと交流会に参加して改めて思いました。

● 2018年度中学生大使 竹村 咲朝



KIFA 日本語ボランティア養成講座

9月7日(土)にキラリエ草津で「KIFA日本語ボランティア養成講座」を開催しました。滋賀YMCA講師の片平協子先生より、日本語初級レベルの外国人への実践的な教え方をワークショップも交えながら学びました。

9月7日(土)キラリエ草津にて、片平協子先生の「KIFA日本語ボランティア養成講座」を受講しました。2時間という短い時間でしたが、日本語を教える人が常に心に持っておくべきことを、改めて確かめることができました。

特に心に残ったのは、「言葉が話せなくても『なんとなく』生活はできる。でも、言語を身に着ければ、一人でできることが増えて、日々の生活に広がりが出てくる」です。私たちは、そのお手伝いをしているのだと思い、モチベーションが上がりました。(その一方で、「皆さん大変熱心なので、気が付いたら先生一人がしゃべっていた、ということがないように」というどきどきする注意もありました)

最後に紹介された「受講者とともに成長する気持ちを持つ」という言葉もとても心に響きました。私自身、日本語教師としての実践はこれからなので、学習者と一緒に成長するつもりで、謙虚に、相手に寄り添いつつ、向き合っていこうと思います。

● KIFA日本語ひろばスタッフ 入江 美貴子



「やさしい日本語」草津市職員向け研修会

今年度も「やさしい日本語市職員研修会」が、9月30日(月)に開かれました。初めに、KIFA多文化共生部会部会長の鶴田真理子氏が「草津市で取り組む多文化共生」について講義しました。続いて、自治体国際化協会・地域国際化推進アドバイザーの吉川友香氏が「やさしい日本語基本講座」とワークショップを行いました。

「多文化共生は外国人のためだけでなく、自分のため・地域のため・未来のため」という考え方が強く印象に残っています。外国人に限らず、色々なたくさんの人とこの社会を生活しているからこそ、支え合って助け合うのはごく当たり前のことなんだと考えさせられました。

また、研修の中でやさしい日本語を実践したとき、相手が誰であっても参考になる話し方で汎用性が高いと感じました。今後は、会話するときにやさしい日本語を心掛け、他の場面でも相手のことを想って行動していきます。

● 草津市職員 桐山 乗乃



津市初期日本語教室「きずな」 見学研修会

7月8日(月)にKIFA日本語ひろばのボランティアスタッフが中心となり、外国ルーツの子供達へ日本語指導をしている三重県津市の初期日本語教室「きずな」を見学しました。また、津市国際交流協会を訪問して懇談しました。



7月8日、草津市国際交流協会(KIFA)の方々と、津市の初期日本語教室「きずな」の見学研修会に参加しました。長年培われてきたノウハウ教材等々、大変に参考になる研修会でした。



「きずな」は外国につながりがある子どもたちの在籍率が7割前後あるという小、中学校に隣接した幼稚園の中にあります。また、市内のどの学校に行っても同じ支援が受けられる「移動きずな」もあり、津市のすべての子どもたちを大切に、という理念のもと、支援のシステムがしっかり構築されていて、外国につながる子どもたちの支援が手厚い！何より、教育委員会の関わりと役割が明確で、日本語習得の支援が効果的に行われていました。またボランティアお二人の交流の中で印象的だったのが、楽しんで支援をされていることです。

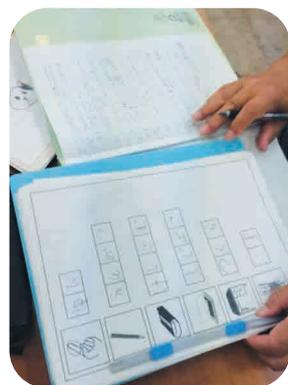
午後からは、津市国際交流協会との交流会。会長、理事長、理事の皆さまと和やかに懇談し、帰りの際には是非草津市に行きたいと話されていました。

草津市においても外国籍の子どもが増えています。支援が必要な子どもたちに適切な支援が行われるよう皆さんと協力しあって、取り組んでいきたいと思いました。

● 草津市議会議員
西垣 和美



研修会参加の目的は、初期日本語教室「きずな」で外国につながる子どもたちがどのように日本語を学んでいるかを見学することだった。教室では、フィリピン人の小学1年生の女子とベトナム人の中学3年生の男子がボランティアの先生とマンツーマンで日本語を勉強していた。先生と子どもたちが、我々にコミュニケーションゲームを見せてくれた。はにかみながらも楽しんで日本語を学んでいる二人の姿に少し安堵感を覚えた。



この教室の「話す・聞く」と「読む・書く」に分かれた日本語教材は、それぞれ65と87の学習項目に分かれており、パックと呼ばれるクリアケースに教案や絵カードがセットで入っていた。この教材は独自に作成し、時間と労力をかけたようだ。教案は場面に応じた会話設定になっており、教える側にも使いやすい内容だった。

ボランティアが支える地域日本語教育で教える側も教えられる側も初級段階でこのような教材を使用すれば、安定した質の良い学習が可能になるのではないかと感じた。

● オリーブ 西垣 雅章



日本語ひろば「きずな」



10月26日(土)日本語ひろばの生徒とスタッフで湖南市のリサイクル工場(滋賀えこファクトリー)を見学しました。

During my recent visit to Mitaka Group, a waste recycling company in Japan, I participated alongside all Japanese language teachers and other instructors. This experience reinforced my belief that every environment is a place of learning and that every individual, regardless of age, can be a teacher. The event organized by KIFA was both enlightening and enjoyable, allowing me to explore new concepts and practices related to waste management.

As an alumnus of the aquatic resource management program during my undergraduate studies, I initially focused on the health of aquatic environments. However, my experience at Mitaka Group opened my eyes to a broader perspective that encompasses the entire ecosystem. Additionally, as I pursue my Master's degree in microbiology, I learned that the principles of processing food waste



into soil with the help of bacteria are crucial. This process illustrates how microorganisms play a vital role in recycling

organic materials, which is essential for sustainability. One of the most significant lessons I took away was the Japanese culture of separating waste before disposal. Witnessing their meticulous recycling processes highlighted the importance of individual responsibility in protecting the environment.

The commitment demonstrated by the Japanese people to sustainable practices serves as a model for us all. It emphasizes the necessity of considering not only our immediate surroundings but also the legacy we leave for future generations. I believe that the knowledge and good habits observed during this visit can be practiced in developing countries, including my home country, Indonesia. This visit has deepened my understanding of recycling and its profound impact on environmental health, fostering a sense of responsibility to advocate for such practices within my own community.

Through this experience, I gained not only knowledge but also emotional insight. I realized that every small action matters, and we possess the power to make a significant difference. Together, we can create a brighter and more sustainable future for our children and grandchildren.

● 立命館大学留学生 Raudatul Ibdiah (インドネシア)



KIFA × UDCBK 共催

● やさしい日本語サロン ●

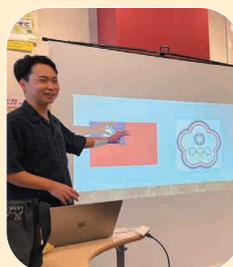


アーバンデザインセンターびわこくさつ (UDCBK) にて、毎週火曜日の午前にやさしい日本語サロンを開催しています。やさしい日本語サロンでは、草津近隣に在住の日本人と外国人がやさしい日本語を使って交流しています。日本人、外国人問わずどなたでもご参加できますので、ご希望の場合はKIFA事務局まで事前にご連絡ください。

「やさしい日本語を使っているんな話題を話そう」というコンセプトで、最近のやさしい日本語サロンは外国人だけでなく、やさしい日本語に関心を持つ日本人の参加者も増えてきています。夏休み中に「子ども国際交流」のミニイベントでは数種類の外国語を使って自分のネームタグ作りや楽しいお菓子づくりなどでにぎやかなひと時を過ごしました。九月に「海外に住む日本人が見た！ 現地の街角事情～台湾編」を開催し、海外在住の日本人がどんなところに着目するのだろう、知っているような知らなかった新しい発見に盛り上がっていました。日本では見たことない直輸入の食べ物、現地ではか買えないちょっとユニークな小物や台湾ユーモアを交えたプチお土産など日本人視点で見た外国の魅力がとても新鮮でした。

老若男女、国籍問わず気軽に参加できる「やさしい日本語サロン」では不定期のミニイベントを通してさまざまな知識や体験を学ぶことができます。また、出席カード制度の導入によって参加者の意欲向上にもつながります。より多くの方々が興味を持って継続的に参加して下さることはやさしい日本語の普及と推進にとって大切なステップです。

● KIFA国際理解部会副部会長 卓 慧宜



出前講座

「ロクハ荘料理教室～本格中華料理」

10月24日(木)に志津まちづくりセンターで、長寿の郷ロクハ荘主催の中華料理教室が開催されました。KIFAが紹介した中国出身の高須賀璃璃さんの指導の下、参加者の皆さんは本格的な中華料理を楽しく作りました。



10月24日は、志津まちづくりセンターでロクハ荘主催の中華料理教室の日でした。メニューはニラ餃子、芋春雨あえ、豆腐スープとデザートでした。初めての料理の講師体験で、気に入ってくれるかドキドキしました。昨夜にピーナッツを炒め、餃子の生地を用意しておきました。参加者のみなさんは、積極的にどんどん作業されてました。豆腐の切り方が菱形で面白い、ジャンボ餃子を初めて作り新鮮だったと言ってくれました。

出来上がると、みなさんおいしいと言って食べてくれて本当に安心しました。KIFAから紹介してくれてありがとうございました。本格的な故郷の料理を披露できたので私にとってとても良い体験になりました。

● 高須賀 璃璃 (中国)



他団体紹介

南笠東まちづくりセンター

南笠東学区の多文化共生交流事業の取組み

南笠東学区は、市内で2番目に外国籍の方が多く住んでいる地域であり、その特色から、令和3年度から多文化共生交流事業を計画し、令和4年度から本格的に、学区在住の外国籍の方と、住民が交流できる場所として草津市国際交流協会(KIFA)の協力を得て事業を展開しました。

住民の方が多文化を知る場として、ベトナムや中国の母国紹介と料理作りを行い、各国の理解を深めるとともに、料理作り

で本場の味を堪能しました。また、ごみ処理施設(クリーンセンター)と水生植物公園みずの森の見学や、史跡草津宿本陣や周辺の散策では、双方が交流をしながら草津市の施設や歴史に触れていただきました。また、外国籍の方に日本の文化や伝統を学んでいただく機会として、学区在住の地域の方を講師に迎え、茶道や日本舞踊・作法体験を行いました。これらの事業を通じて地域の方との交流を深めるきっかけとなりました。

● 南笠東まちづくりセンター 森 由美



令和4年度 日本文化体験 茶道



令和4年度 水生植物公園みずの森の見学



令和5年度 中国文化体験と料理作り

募集 「いろんな国で活躍する日本人」～(アフリカ) マラウイ共和国編～

2018年度のJICA青年海外協力隊で、アフリカのマラウイ共和国に言語聴覚士として聴覚支援学校へ配属され、2年間活動された冬野由季氏を講師に迎え、帰国隊員報告会を開催します。

沢山の方に聴きにきていただきたいと思いますので、ぜひお申し込みください。

- 日 時：2025年1月25日(土) 10:00～11:30
- 場 所：キラリエ草津5階 501会議室にて
- 定 員：50名
- 参加費：無料
- お問い合わせ：1月22日(水)までに、右記の申し込みフォーム(QRコード)かEメール(kifa-japan@coda.ocn.ne.jp)で
※小学生以下は保護者同伴



<https://forms.gle/aTSgCxFpchbkQ3gr9>

お願い 2024年度分 年会費未納の方へ(納入のお願い)

平素より、草津市国際交流協会へのご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。当協会の活動は、みなさまからの年会費をもとに運営させていただいております。

KIFA会員の方で、2024年度年会費を未納の方は、下記のとおりご納入くださいますようお願い申し上げます。また、入会をご希望の方は、当協会事務局までお知らせください。

なお、2025年度分の年会費は2025年4月1日(火)以降のご納入をお願い申し上げます。

- 年会費：【個人・団体等】2,000円/1口 【法人等】10,000円/1口
※口数は、何口でも結構です。※当協会の規定により、年会費を2年以上滞納した場合は自動退会となります。
- 納入期日：2025年1月31日(金) ※2024年度分未納の方のみ
- 納入方法：以下のいずれかの方法にてご納入ください。
・当協会事務局窓口にて直接ご納入 ・以下のいずれかの金融機関へのお振込み

口 座 名	草津市国際交流協会 会長 南 啓次郎		
口 座 番 号	滋賀銀行 草津市役所代理店	普通口座	012384
	JA レーク滋賀草津支店	普通口座	0585996

※恐れ入りますが、金融機関でのお振込みには、所定の手数料がかかります。

